

| |
|--|
| 会議名：平成23年(2011年)赤十字赤新月運動代表者会議第一決議 「核兵器廃絶に向けての歩み」の履行にかかる検討会議 |
| 場 所：グランドプリンスホテル広島 |
| 日 時：平成25年5月16日(木) 11:00-11:30 講演 ※英語 |

(冒頭)

広島県知事の湯崎英彦です。

私は、本日、ここ広島で、世界中の赤十字・赤新月社の皆さまと語り合えることを大変嬉しく、大きな価値を感じており、このような機会を与えていただいたことに心から感謝申し上げます。

生命の尊厳を改めて確認し、世界の平和と人類の生存に脅威を与える核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現に向けて努力することは、現在に生きる私たちの責務であり、「人道」という理念に基づいて、世界的に様々な活動を展開し、核兵器廃絶に取り組んでおられる赤十字・赤新月社の皆様方に深く敬意を表する。

(趣旨)

本日は、人類史上初の原子爆弾による破壊を経験し、その廃墟から復興した地である広島が、世界の中での使命と役割をどのように捉えて、どのように行動しようとしているのか、広島の国際平和への取組について、お話しさせていただく。

(原子爆弾の被害、核兵器がもたらすもの)

核兵器による破壊は、人間の死や建造物の物理的な破壊だけではなく、人々が暮らしていた地域の歴史や、そこに住んでいた家族の記憶などを文字通り丸ごと消し去る。社会や生命と共に存在の記憶、あるいはこれらの手がかりすらも消し去っていく—「人間的生の全体的破壊」—をもたらす。

核兵器がもたらす、非人道的な悲惨さを、世界のリーダーをはじめ、より多くの人に知ってもらいたいと強く願っている。

(3つのポイント)

広島について強調したいのは、

- ① 「広島は“破壊された地”であるとともに“復興した地”であること」、
- ② 「核兵器廃絶と平和構築の包括的な取組が求められる中で、広島の使命と役割がより大きいこと」、
- ③ 「広島を世界平和の拠点にしていく」

という点である。

広島は、核兵器による破壊現実を示すことにより、“核兵器廃絶への信念”を提供することができる。

広島は、廃墟から復興した平和な姿を示すことにより“復興できるという確信”を提供することができる地である。

また、平和の資源を集積し、世界を平和へと導くことのできる大きな力にしていく必要があり、人類史上初の原子爆弾による惨禍を経験し、その廃墟からの復興を成し遂げ、平和のアイデンティティを持つ広島はそれをリードする役割を担うべきであると考えている。

(国際平和拠点ひろしま構想、ガイドライン)

このような考えのもと、世界の中での広島の使命と役割を問い直し、2011年10月に、「[国際平和拠点ひろしま構想](#)」をまとめた。2012年には、この構想を具体化していくための方向性を示した「[国際平和拠点ひろしま構想推進ガイドライン](#)」をまとめた。

(目指す姿と主な取組)

核兵器のない平和な世界は、現在の世界から核兵器をなくすだけでは生まれず、紛争やテロの原因その

ものを除去するための安定した社会づくりとそのための復興・平和構築の取組が同時に必要であると考えている。広島市をはじめとする関係機関と連携しながら、「核兵器廃絶への信念」と「復興への確信」の提供といった広島のシンボル性を生かして、核兵器の廃絶と安定した平和な社会の構築に向けて包括的な取組を進めることとしている。

(核兵器廃絶への取組)

広島から継続して被爆の実相を伝え、核兵器廃絶を世界に訴えていく。

被爆の実相について、各国のリーダーに具体的な認識を深めてもらい、核兵器に対する強い否定の意識形成を図るとともに、一般の人々にも同様の意識を持ってもらうことで国際世論を喚起し、核兵器廃絶への実際の行動を促進することを目指している。

この取組の1つとして、各国の核軍縮・不拡散の取組状況を調査・研究して、評価した結果を“[ひろしまレポート](#)”として取りまとめ、4月に公表した。

この「ひろしまレポート」が契機となり、核兵器廃絶に向けた世界的な機運がより一層高まるとともに、各国における核軍縮に向けた新たな取組が生まれるなど、国際社会における核兵器廃絶のプロセスが少しずつでも着実に前に進むことを期待している。

このほかにも、核軍縮に関する非政府レベルでの多国間協議の場として「ひろしまラウンドテーブル」の開催なども予定している。このような取組により、核兵器廃絶に向けての理論的裏付けを強化したい。

(人材育成, 研究集積)

復興・平和構築の「人材育成」や「研究集積」促進にも、取り組むこととしている。

復興プロセス研究や放射線医療分野の研究等を基に、平和に関する人材育成に活用し、広島が平和に関する研究の拠点となっていくよう取組む。

(平和の対話の場の提供)

また、広島で平和のための対話を推進することの意義を世界に訴えていきたい。そして、紛争当事国などによる平和のための対話の場を広島で持つことを目指していきたい。

(持続可能な平和活動支援メカニズムの構築)

こうした核兵器廃絶と平和構築の2つの取組を持続的なものとするために、平和活動支援のインキュベーション機能の整備や安定的な推進体制づくりなどにも取組む。

7月には世界に平和を訴えるためのピースコンサートを広島で開催する。

広島の取組を広く世界にアピールして理解を得ることによって、世界の人、情報、資金が集積され、広島が世界平和のための取組の拠点として、貢献していけることを願っている。

(まとめ)

68年前、広島が経験した被爆の惨禍は、とても大きなものであった。しかし、広島は、いつまでも「悲劇の地」に留まっていることはできない。人類史上初の被爆地として世界に知られるだけではなく、平和の実現を目的とする諸活動のネットワークの中心として、その立場を確立したいと考えている。

広島は、破壊された地としてだけでなく、未来のために平和な社会を築いていくための拠点として、世界に貢献していきたいと考えている。

皆様には、是非、広島の平和の取組に御賛同いただき、各国のリーダーを始め、多くの人に対して、広島を訪問して被爆の実相に触れ、核兵器廃絶を願う広島の思いを共有されるように働きかけていただくなど、様々な形での御支援を心からお願い申し上げます。